

# Weekly Michael's News

## <今週の聖句>

2018年10月8日発行 No.82

『そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそわたしの骨の骨 わたしの肉の肉。これをこそ女（イヤー）と呼ぼう まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」』（創世記 第2章2節）

## <Welcome to KIU!! なんと75名もの留学生を迎えて2018年度秋期入学式を挙行!!>

9月から10月にかけて週末には連続して台風が列島に到来しています。そんな中、先週の土曜日には神戸国際大学経済学部・国際別科の2018年度秋期入学式が執り行われ、様々な国から集まった75名もの留学生が新しいキャンパスライフをスタートさせました。神戸国際大学はキリスト教を土台とする大学なので、この日の入学式も礼拝形式で行われました。アジアから来た学生が多いためか、ほとんどの学生が「キリスト教の礼拝は初めて…汗」という状況でしたが、礼拝開始前に少し練習をすると、聖歌や祈りの声が大きくなり、これから始まる学生生活に向けての強い意欲がチャペル全体に表れていました!!



朝まで降っていた雨も止み青空が



座席を確認中 名前はどこかな?



ほぼ満員のチャペル!! 感謝感激!!



歓迎の想いのこもった入学許可



階段にたくさんの笑顔が咲きました



和やかに盛り上がった歓迎会

急速にグローバル化が進む中、世界中の国々が隣国と、そして隣人とどのように関係を結んでいくかが問われています。そのような世界的課題の中で、これだけ多くの留学生をKIUに迎えられた、そこには大きな意味と恵みがあるように思います。ずさんな学校運営で留学生がトラブルに巻き込まれる…そんな事件も発生していますが、今一度KIUは、建学の精神に立ち返り、神様

が送って下さった学生一人ひとりを大切に受け止める、有意義な学びを共に分かち合っていきたいと願います。皆さんの学生生活が祝されたものになるよう、心からお祈りしています。またキリスト教センター、そしてチャペルにも遊びに来てね～(^o^)/” マッテルヨ～

#### <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月1日(月) テーマ:「聞こえてくる足音を前に」

野間 光顕(チャプレン)

この夏、私は8月4日～6日「ヒロシマ平和旅考」に参加し、17名の学生と共に灼熱の広島を訪れた。平和記念公園内に点在する碑には、その一つひとつに異なる苦しみが刻まれている。また平和資料館は、最新の技術を駆使して73年前の惨禍を再現するものが多く展示されていた。英語等の説明が併記されており、学びを深めようとする留学生にはとても良い機会となった。ここに大きな意味がある。戦争は映画や映像の中の話ではなく、実際に生きている私たちの命を驚掴みにし、根こそぎ滅ぼす。現代社会ではそのような恐ろしさを踏まえない無自覚から、確実に戦争の足音が忍び寄って来る。私たちはその足音を前に、どのように生きるべきなのだろうか。

10月2日(火) テーマ:「建学の精神と共に歩んだ50年」

山口 宰(経済学部)

今年、KIUは創立50周年を迎えた。数々の苦難を乗り越えて本学を創立した八代斌助師父とはどんな人物だったのか? 1927年に司祭となり、英国の神学校に留学、祈りと奉仕の日々を経験した後、神戸聖ヨハネ教会牧師、その後死去するまで首座主教を務めた。戦後、世界の聖公会との「和解」のために、世界中を飛び回って日本の国際的地位の向上に尽力した。八代師父は本学の創立に際し「現代社会における大学の新しいあり方を追求したい」と記す。それは何か? 次の50年に向けての大きな宿題を抱えつつ、新たな一歩を踏み出していきたい。

10月3日(水) テーマ:「ブランド志向」

八代 智(学院長)

9月は大きな台風が連続して日本列島を襲った。この六甲アイランドも例外ではなく、あと30分嵐が続いていれば、あと10cm水位が高ければKIUも水害に見舞われていたらしい。守られた事を感謝したい。しかし一方で、アイランド中央にあるフェラーリの店舗が浸水し、数十億円の被害が出たと聞いた。車の世界では超高価なブランドであるフェラーリだが、水に浸かってしまっただけではその価値が損なわれてしまう。今日の聖書は有名なタラントンの譬だ。私たち一人ひとりに与えられている価値は違うけれど、それらは神の目の前に皆尊い。自分の持つタレント(特性)を生かし、更に伸ばせるような学生生活をKIUで送って欲しい。

10月4日(木) テーマ:「英語を節制する」

市瀬 俊介(経済学部)

昨今の英語の氾濫には目に余るものがある。カウチ`リティとかインフォ`ムゼットとか外来語なのか英語なのかさえわからないような言葉が乱用され、小学校から大学まで英語が過剰に教育されている。その背景には「グローバル化=英語が世界共通語」という誤解がある。日本には英語だけでなく多くの外来語が溢れており、10年もすれば他言語を学ばなくてもAIが同時通訳をする時代になるだろう。急速に欧米化する日本だが、むしろアジアの一部である日本は、もっとアジアを知り、言語だけでなくその国の文化、社会等を深く学ぶ必要があるのではないか。

10月5日(金) テーマ:「知ることへの探求」

毛 丹青(経済学部)

この9月からアジアの歴史と文化の授業を担当している。そこでは日本文化を世界に知らしめた名著、R. ベネディクトの「菊と刀」を紹介している。彼女は1940年代、まだ男女差別が厳しかったアメリカで日本文化についての研究を深め、この本を書いた。日本に行く事もなく、日

本人の友人もいなかった彼女がなぜ、どのようにしてこのようなレポートを書き残せたのか？  
彼女は戦争で捕虜となった日本人約 3,000 人に対して丁寧に面談を行い日本人の心の中にある  
「天皇」の存在を発見、戦後の日本をリードしたアメリカに重要な示唆を与えた。彼女の文章  
は、時代を超えて今の日本を鋭く言い当てている事から再び注目が集まっているが、目前の相手  
への関心、彼女のような「知」への執念を見習いたい。(文責：野間 光頭)